

Okubo, M., Kobayashi, A., & Ishikawa, K. (2012). A fake smile thwarts cheater detection. *Journal of Nonverbal Behavior*, 36(3) 217-225.

大久保 街亜

本論文はCosmides (1989) による「生得的な裏切り者検知メカニズム仮説」に触発されたものである。この仮説を提案した彼女の論文は進化心理学における記念碑的業績として現在広く認識されている。Cosmidesによれば、社会的な交換は重要な適応課題であり、この課題に適応するため、ヒトは裏切り者検知能力を進化的に獲得したとされる。社会的交換における協調行動は、人間社会で普遍的に見られる特徴である。ただし、このような協調行動が進化するためには、社会的交換において、利益に対する対価を支払わない裏切り者が排除されなければならない。なぜなら、社会交換における裏切り者は一方的に利益を得るため、長い進化の過程で、裏切り者だけが選択されるからである。現代の人間社会において、社会交換における協調行動が一般的な特徴であることを考えると、我々はなんらかの形で社会交換における裏切り者を排除するシステムやメカニズムを備えていると考えられる。Cosmides (1989) は我々ひとりひとりが、認知機構として生得的な裏切り者検知メカニズムを備えているため、裏切り者を排除できると考えた。

数多くの研究者が、Cosmides (1989) の仮説を支持する結果を報告してきた。代表的なものに、彼女自身によるWason 選択課題を用いた実験がある。従来の形式をもちいたWason選択課題は正答率が著しく低いことで知られる。実際、大半の研究で正答率は10%程度であった。Cosmides (1989) は、裏切り者を排除するという方略を用いることが可能な形式で選択問題を呈示した。その結果、正答率が飛躍的に上昇することを示した。また、この仮説を支持する知見として、見ためから裏切り者と協調者を区別できることが数多くの実験から示されてきた。見ために基づいた裏切り者検知が可能なら、裏切り者の排除は容易であると考えられる。

このような裏切り者検知メカニズムの実在性を支持する研究を鑑みると、社会交換における裏切り者は容易く検知できるように感じられる。しかし、誰もが日常体験から身にしみてわかるように、これは全くの誤りである。裏切り者検知は決して簡単ではない。その証拠に現実世界には種々の裏切り行為に満ちている。詐欺、詐称のような刑罰の対象となるような裏切り行為から、カンニングや剽窃、盗作などのアカデミック・チーティング、最も卑近な例では電車の列の横入りなどなど、われわれが目にする裏切り行為を並べるとまさに枚挙に暇がないこととなる。

本論文では、裏切り者検知メカニズムの実在性を支持する研究がある一方で、なぜ、日常生活で裏切り行為を検知するのが必ずしも容易ではないか検討を行った。我々は、見目の信頼感に笑顔が直接の影響を与えることに着目した。そこで、笑顔をうまく利用することで裏切り者は裏切り者として検知されることから逃れているという仮説を設定した。

この仮説を検証するため、裏切り者と協調者の顔写真を用いて、信頼感の評定課題を行った。裏切り者と協調者の定義には金銭のやり取りを伴う経済ゲームの成績を用いた。この経済ゲームを行い、ゲーム内での裏切り回数が多い者を裏切り者、少ない者を協調者と定義した。そして、裏切り者と協調者に、笑顔と怒り顔の表情を浮かべてもらい、写真の撮影を行った。この写真に対して、写真モデルとなった裏切り者と協調者に面識のない被験者が、写真から見た写真モデルの信頼感を評定した。評定にあたっては「金銭のやり取りをするにあたりこの人物をどれくらい信用できますか」とたずね、7段階で評定してもらった。

評定の結果、怒り顔では裏切り者の見た目の信頼感が、協調者よりも低く評定された。裏切り者が信頼できないと評定されたことは、被験者が正しく裏切り者検知を行ったことを意味する。一方、笑顔の写真を用いると裏切り者と協調者の間にあった信頼感の差は消失した。すなわち、どちらも同じくらい信頼できるように見えたのである。なお、笑顔による信頼感の上昇は、裏切り者だけで統計的に有意であった。この結果は、われわれの仮説を支持する者である。すなわち、今回の結果から、裏切り者は笑顔を巧みに用いることで、裏切り者として検知されることを逃れていることが示唆された。

引用文献

Cosmides, L. (1989). The logic of social exchange: Has natural selection shaped how humans reason? *Studies with the Wason selection task*. *Cognition*, 31(3), 187-276.